

パスハ祭期（アンティパスハから瞽者主日まで）

主日聖体礼儀

単音聖歌譜



司祭祈祷

注意 譜面中、五線譜上に ||○|| とある部分は、その音程を保ちながら、その部分の歌詞（祈祷文）が持つ言葉の自然なリズムに則って歌うことを意味しています。ただ早く歌ってしまったり、棒読みになってしまったりしないよう、気をつけてください。この聖歌譜はそのために、歌詞の意味をとることが容易になるよう漢字を多く用いて作成しています。

2020年4月25日 作成

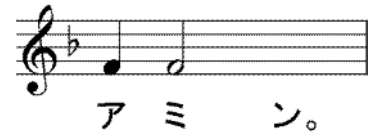
2024年5月7日 一部改訂

釧路ハリストス正教会 管轄司祭ステファン内田圭一

【 聖体礼儀の開始 】

司祭) (黙誦：ハリストス死より復活し死を以て死を滅し墓に在る者に生命を賜えり、ハリストス死より復活し死を以て死を滅し墓に在る者に生命を賜えり、ハリストス死より復活し死を以て死を滅し墓に在る者に生命を賜えり、
 至と高きには光榮神に歸し、地には平安降り、人に恵は臨めり、至と高き
 には光榮神に歸し、地には平安降り、人に恵は臨めり、
 主よ、我が唇を啓けよ、然せば我が口は爾の讚美を揚げんとす、)

司祭) 父と子と聖神の國は崇め讃めらる、今も何時も世々に、



【 パスハの讚詞 】

ハリストス死より復活し、死をもって死を
 滅し、墓に在るものに
 生命を賜えり。

ハリストス死より復活し、死をもって死を
 滅し、墓に在るものに
 生命を賜えり。

ハリスト スしよ りふくか つし、しをもつてしを
 死 復 活 死 以 死
 ほろぼ おし、はか にあるもの に
 滅 墓 在 者
 い のちをたま えり。
 生 命 賜

【 大聯禱 】

司祭) ^{われらあんわ}我等安和にして^{しゅ いの}主に禱らん、

しゅ あわれ めよ。
 主 憐

司祭) ^{うえ くだ あんわ われら たましい すくい ため しゅ いの}上より降る安和と我等が 靈の救の爲に主に禱らん、

しゅ あわれ めよ。
 主 憐

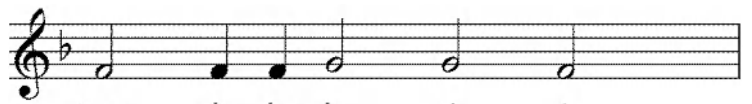
司祭) ^{ぜんせかい あんわ かみ せい しよきょうかい けんりつ およ しゅうじん ごういつ ため しゅ いの}全世界の安和、神の聖なる諸教會の堅立、及び衆人の合一の爲に主に禱らん、

しゅ あわれ めよ。
 主 憐

司祭) ^{こ せいどう およ しん つつしみ かみ おそ ころ もつ ここ きた もの ため しゅ いの}此の聖堂、及び信と 慎と神を畏るる心とを以て此に来る者の爲に主に禱らん、

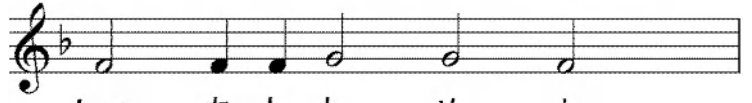
しゅ あわれ めよ。
 主 憐

司祭) ^{きょうかい つかさど そんき われら ぜんにつぼん ふしゅきょう しさい そんびん}教會を司る尊貴なる我等の全日本の府主教セラフィム、司祭の尊品、ハリス
^{よ ほさいしよく ことごと きょうしゅう およ しゅうじん ため しゅ いの}トスに因る輔祭職、悉くの教衆、及び衆人の爲に主に禱らん、



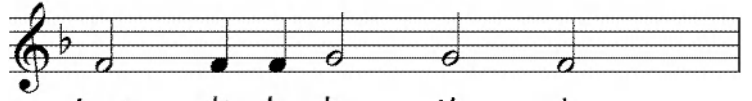
しゅ あわれ め よ 。
主 憐

司祭) わがくに てんのう およ くに つかさど もの ため しゅ いの
我國の天皇、及び國を 司 る者の爲に主に禱らん、



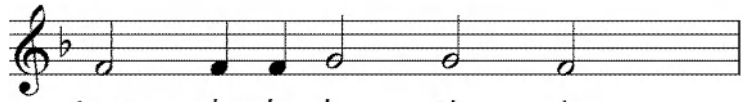
しゅ あわれ め よ 。
主 憐

司祭) こ まち およそ まち ちほう ため およ しん もつ こ うち お もの ため しゅ いの
此の都邑と 凡 の都邑と地方の爲、及び信を以て此の中に居る者の爲に主に禱らん、



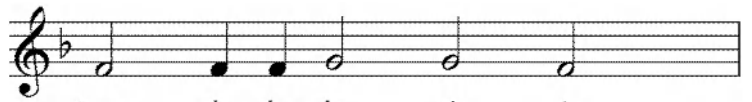
しゅ あわれ め よ 。
主 憐

司祭) きこうじゅんわ ごこくほうじょう てんかたいへい ため しゅ いの
氣候 順和、五穀豊穰、天下泰平の爲に主に禱らん、



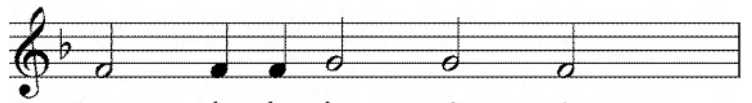
しゅ あわれ め よ 。
主 憐

司祭) こうかい もの りょこう もの やまい うれ もの かんなん あ もの とりこ もの およ
航海する者、旅行する者、病を患うる者、艱難に遭う者、擄となりし者、及び
かれら すくい ため しゅ いの
彼等の救の爲に主に禱らん、



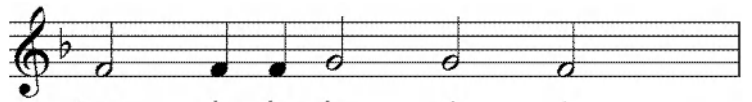
しゅ あわれ め よ 。
主 憐

司祭) われらもろもろ うれい いかり あやうき まぬが ため しゅ いの
我等 諸 の憂愁と忿怒と危難とを 免 るるが爲に主に禱らん、



しゅ あわれ め よ 。
主 憐

司祭) かみ なんぢ おんちよう もつ われら たす すく あわれ まも
神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救い 憐 み 護れよ、

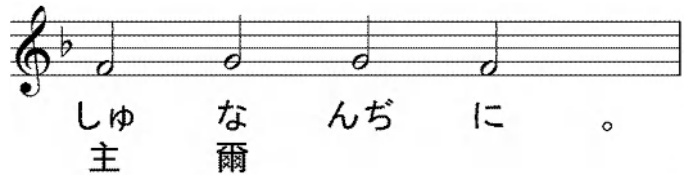


しゅ あわれ め よ 。
主 憐

司祭) しせいしけつ いた さんび われら こうえい ぢよさい しょうしんぢよ えいていどうぢよ
至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、

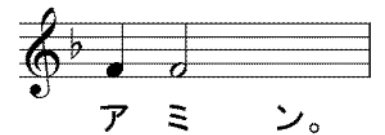
しよせいじん きおく われらおのれ みおよ たがい おのおの み もつ ならび ことごと われら
諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の

いのち もつ かみ いたく
生命を以て、ハリストス神に委託せん、



司祭) (黙誦：主我が神よ、爾の權柄は像り難く、光榮は測り難し、爾の仁慈は限り無く、仁愛は言い難し、求む主宰よ、爾の慈憐に因りて、親ら我等と此の聖堂とを眷み、我等及び我等と偕に禱る者に爾の豊なる恩澤と爾の愛憐とを施し給え、)

司祭) 蓋、凡そ光榮尊貴伏拜は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世に、



【 第一アンティフォン 第102聖詠 】

わがたましいよ、しゅをほめあげよ、しゅよなん
我 靈 主 讚 揚 主 爾
ちはあがめほめらる。わがたましいよ、
崇 讚 我 靈
しゅをほめあげよ、わがちゅうしんよ、そのせい
主 讚 揚 我 中 心 其 聖
なるなをほめあげよ。
名 讚 揚
わがたましいよ、しゅをほめあげよ、かれが
我 靈 主 讚 揚 彼
ことごとくのおんをわするるなかれ。
悉 恩 忘 勿

か れ は なんぢ が も ろ も ろ の ふ ほ う を ゆ る
 彼 爾 諸 不 法 赦
 し 、 なんぢ が も ろ も ろ の や ま い を い や す 。
 爾 諸 疾 療
 こ お え い は ち ち と こ と せ い し ん に き す 。
 光 榮 父 子 聖 神 歸
 い ま あ も お い つ も よ よ に 、 ア ミ ン 。
 今 何 時 世 世
 わ が た ま し い よ 、 し ゅ を ほ め あ げ よ 、 わ が ち ゅ
 我 靈 主 讚 揚 我 中
 う し ん よ 、 そ の せ い な る な を ほ め あ げ よ 、
 心 其 聖 名 讚 揚
 し ゅ よ 、 なんぢ は あ が め ほ め ら る 。
 主 爾 崇 讚

【 小聯禱 】

司祭) われらまたまたあんわ ^{しゅ いの} 我等復又安和にして主に禱らん、

しゅ あ わ れ め よ 。
主 憐

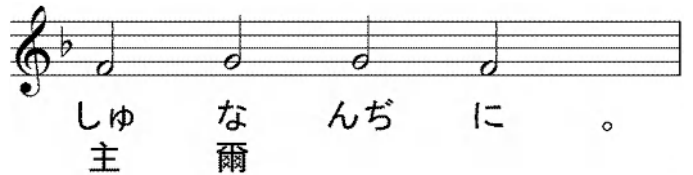
司祭) かみ ^{なんぢ おんちよう もつ} われら ^{たす すく} あわれ ^{まも} 神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救い憐み護れよ、

しゅ あ わ れ め よ 。
主 憐

司祭) しせいしけつ ^{いた} ^{さんび} われら ^{こうえい} ^{ぢよさい} ^{しょうしんぢよ} ^{えいていどうぢよ} 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、

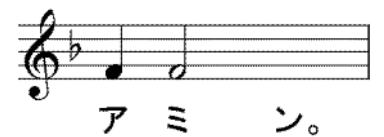
しよせいじん ^{きおく} ^{われらおのれ} ^{みおよ} ^{たがい} ^{おのおの} ^み ^{もつ} ^{ならび} ^{ことごと} ^{われら} 諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の

いのち もつ 生命を以て、ハリストス神に委託せん、
かみ いたく



司祭) (黙誦：主我が神よ、爾の民を救い、及び爾の嗣業に福を降し、爾が教會
の充滿を守り、爾が堂の美なるを愛する者を聖にせよ、爾が神聖の力
を以て彼等を光榮し、我等爾を恃む者を遺す勿れ、)

司祭) 蓋權柄及び國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世に、



【 第二アンティフォン 第145聖詠 】

わ が た ま し い よ しゅ を ほ め あ げ よ 、 わ れ い け
我 靈 主 讚 揚 我 生
る う ち しゅ を ほ め あ げ ん 。 わ れ ぞ ん め い の う ち
中 主 讚 揚 我 存 命 中
わ が か み に う た わ ん 。
我 神 歌
ぼ く は く を た の む な か れ 、 す く う
僕 伯 特 母 救
あ た わ ぎ る ひ と の こ を た の む な か れ 。
能 人 子 特 母
しゅ は た び び と を ま も り 、 み な し ご と
主 鞫 人 護 孤 子

やもめとをたすけ、ただふけんしゃのみちを
 寡婦を佑惟不虔者途
 くつがえす。
 覆
 しゅはいえんにおうとならん。シオンよなんぢ
 主永遠王爾
 のかみはよよにおうとならん。
 神世世王

【 神の獨生の子 】

こうえいはちちとことせいしんにきす、いまも
 光榮父子聖神歸今
 いつもよよに、アミン。
 何時世世
 かみのどくせいのこならびにことばよ、
 神獨生子並言
 しせざるものにしてわれらをすくわんがため
 死者者我等救爲
 あまんじてせいなるしょうしんぢよ・えいていどうぢよ
 甘聖生神女永貞童女
 マリヤよりみをとり、かみのせいをかえ
 身取神性易
 ずしてひととなりじゅうじかにくぎうたれ、
 人十字架釘

しをもってしをふみやぶりしハリストスカみよ、
 死以死踏破神
 せいさんしゃのいつとしてちちとせいしんとと
 聖三者一父聖神共
 もにさんえいせらるるのしゅよ、われらをす
 讚榮主我等救
 くいたまあえ。
 給

【 小聯禱 】

司祭) ^{われらまたまたあんわ} 我等復又 ^{しゅいの} 安和にして主に禱らん、

しゅあわれめよ、しゅあわれめよ。
 主憐主憐

司祭) ^{かみ} 神よ、^{なんぢ} 爾の恩 ^{おんちよう} 寵を以て、^{われら} 我等を ^{たす} 助け ^{すく} 救い ^{あわれ} 憐み ^{まも} 護れよ、

^{しせいしけつ} 至聖至潔にして ^{いた} 至りて ^{さんび} 讚美たる ^{われら} 我等の ^{こうえい} 光榮の ^{ぢよさい} 女宰、^{しょうしんぢよ} 生神女、^{えいていどうぢよ} 永貞童女マリヤと、

^{しよせいじん} 諸聖人を ^{きおく} 記憶して、^{われら} 我等 ^{みおよ} 己の身及び ^{たがい} 互に ^{おのおの} 各の身を以て、^み 並に ^{もつ} 悉く ^{ならび} ことごと ^{われら} 我等の

^{いのち} 生命を以て、^{かみ} ハリストス神に ^{いたく} 委託せん、

しゅなんぢに、
 主爾

司祭) (黙誦: ^{われら} 我等に ^こ 此の ^{こうどうわごう} 共同和合の ^{きとう} 祈禱を ^{たま} 賜い、^{かつ} 曾て ^{にさんにんなんぢ} 二三人 爾の名に ^な 依りて ^{あつ} 集まる者に

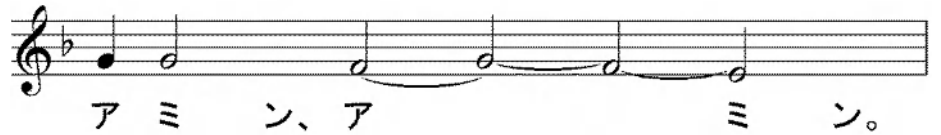
^{そのもと} も其 ^{ところ} 求むる ^{たま} 所を ^{やく} 賜うを ^{しゅ} 約せし ^{なんぢみづか} 主よ、 ^{いま} 爾親ら ^{なんぢ} 今も ^{しよぼく} 爾が ^{ねがい} 諸僕 ^{その} の願を其

^{りえき} 利益の ^{ため} 爲に ^{かな} 應わしめて、^{われら} 我等に ^{こんせ} 今世には ^{なんぢ} 爾の ^{しんり} 眞理を ^し 識り、^{らいせ} 來世には ^{えいえん} 永遠の ^{いのち} 生命

^え を得るを ^{たま} 給え、)

司祭) ^{けだしなんぢ} 蓋 爾は ^{ぜん} 善にして ^{ひと} 人を ^{あい} 愛する ^{かみ} 神なり、^{われら} 我等 ^{こうえい} 光榮を ^{なんぢちち} 爾父と子と ^こ 聖神に ^{けん} 献ず、^{いま} 今も

いつよよ
何時も世に、



【 第三アンティフォン 】

しゆよ なるのくににきたらんと き、
主 爾 國 來

われらをおもいたまえ。こころのま貧
我等 記憶 給 心(神・しん) 貧

づしきものはさいわいな り、てんごくはか彼
者 福 天 國 彼

れらのものなればなり。
等有

なくものはさいわいな り、かれらな慰
泣 者 福 彼 等 慰

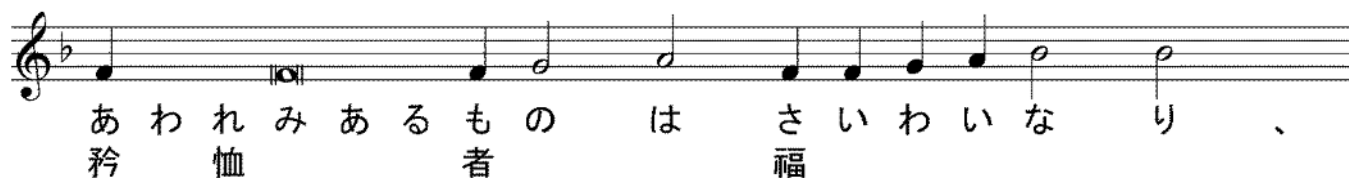
ぐさみをえんとすればなり。
得

おんちゆうなるものはさいわいな り、か彼
温 柔 者 福 彼

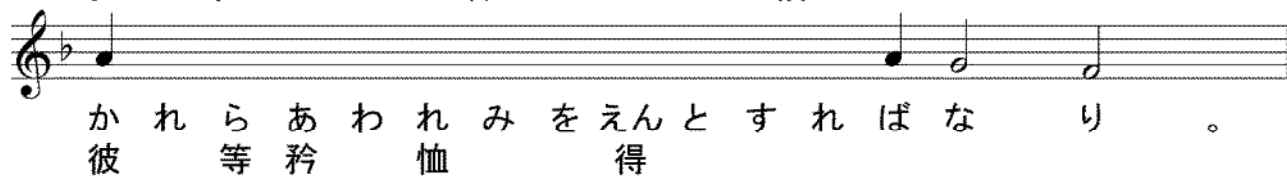
れらちをつがんとすればなり。
等 地 嗣

ぎい にうえかわくものはさいわいな
義 飢 渴 者 福

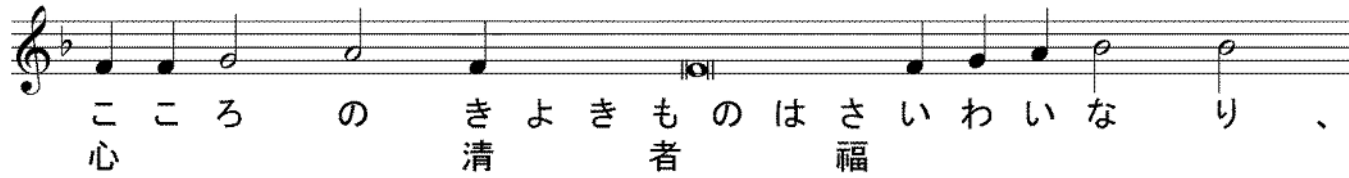
り、かれらあくをえんとすればなり。
彼 等 飽 得



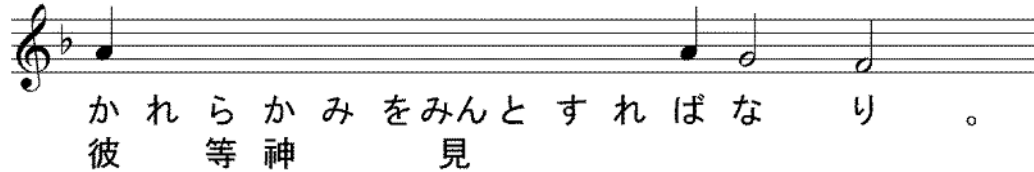
あわれみあるものはさいわいなり、
矜恤者 福



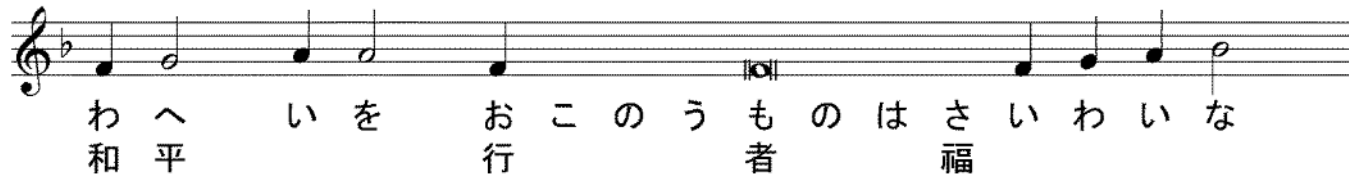
かれらあわれみをえんとすればなり。
彼等矜恤得



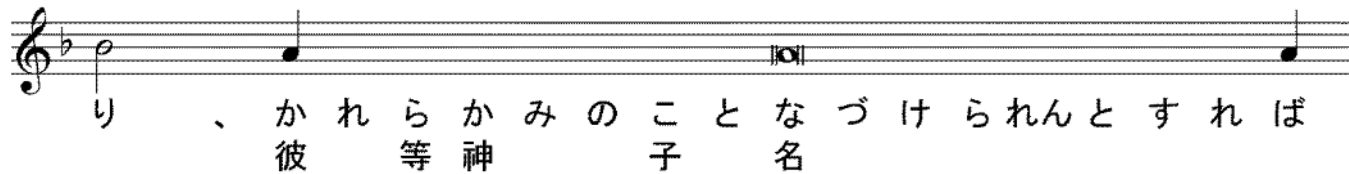
こころのきよきものはさいわいなり、
心清者 福



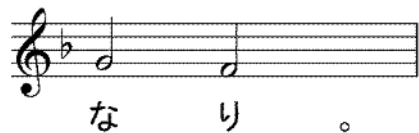
かれらかみをみんとすればなり。
彼等神見



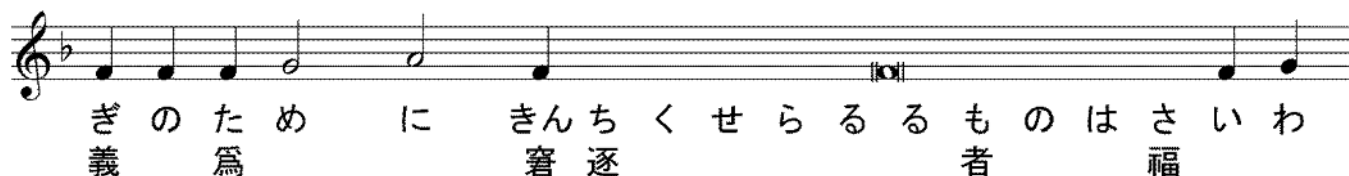
わへいをおこのうものはさいわいな
和平 行 者 福



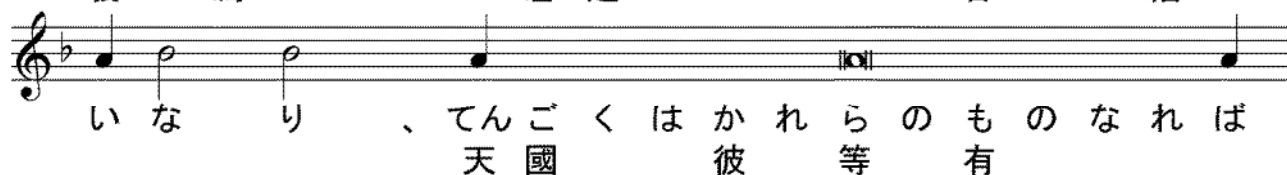
り、かれらかみのことなづけられんとすれば
彼等神子名



なり。



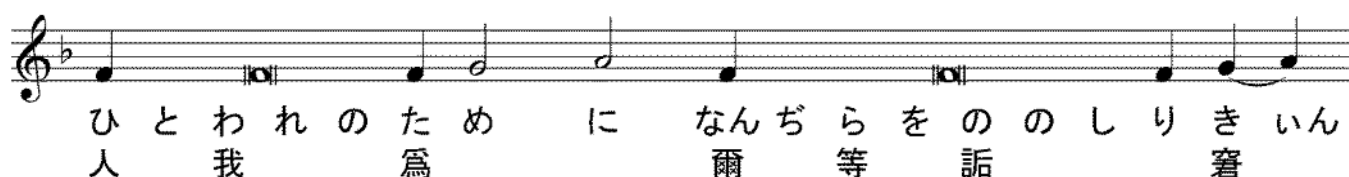
ぎのためいきんちくせらるるものはさいわ
義爲 窘逐 者 福



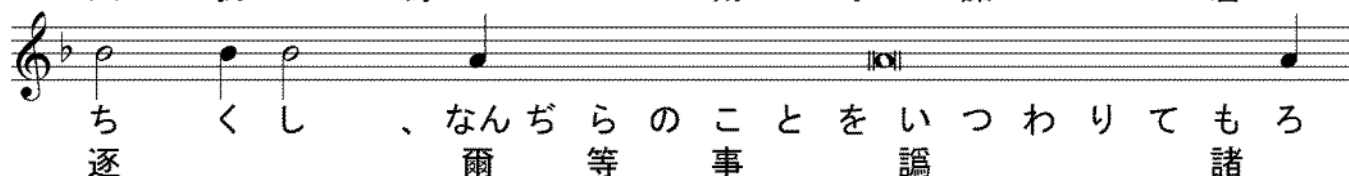
いなり、てんごくはかれらのものなれば
天國 彼等有



なり。



ひとわれのためになんぢらをのしりきいん
人我爲 爾等 詬 窘



ちくし、なんぢらのことをいつわりてもろ
逐 爾等 事 譌 諸

も ろ の あ し き こ と ば を い わ ん と き は な ん ぢ ら さ い
悪 言 言 時 爾 等 福

わ い な り 、 よ ろ こ び た の し め よ 、
喜 樂

て ん に は な ん ぢ ら の む く い お お け れ ば な り 。
天 爾 等 賞 多

司祭) (黙誦：^{しゅさい}主宰・^{しゅ}主・^{われら}我等の^{かみ}神、^{しよてん}諸天に^{てんしおよ}天使及び、^{てんししゅ}天使首の^{ひんきゆう}品級と^{ぐんたい}軍隊とを立て
て^{なんぢ}爾が^{こうえい}光榮の^{ほうじしゃ}奉事者となしし^{もの}者よ、^{もと}求む^{われら}我等の^い入るに^{ともな}伴いて、^か彼の^{われら}我等と
とも^{つと}共に^{とも}爾の^{しぜん}至善を^{さんえい}讚榮する^{せいてんしら}聖天使等の^い入るを^{いた}致させ^{たま}給え、^{けだし}蓋、^{およ}凡
^{こうえい}そ光榮^{そんきふくはい}尊貴^{なんぢちち}伏拝は^こ爾^{せいしん}父と^き子と^{いま}聖神に^{いつ}歸す、^{よよ}今も何時も^{よよ}世々に、)

司祭) ^{えいち}睿智、^{つつし}肅^たみて立て、

き た れ 、 ハ リ ス ト ス の ま あ え に ふ し お が
來 前 伏 拜

ま あ ん 。 か み の こ し よ り ふ く か つ せ
神 子 死 復 活

し し ゅ よ 、 な ん ぢ に ア リ ル イ ヤ を た て ま つ
主 爾 奉

る も の お を す く い た ま え 。
者 救 給 え